

生物多様性とちぎ戦略（仮称）の構成イメージ

第1章 基本的事項

1 策定の背景

2 戦略の性格

3 戦略の期間

第2章 生物多様性の取り巻く情勢

第1節 生物多様性の恵みと危機

- 1 多種多様な生き物たちがそれぞれの個性を生かしてつながりあう「生物多様性」
（「生態系」、「種」、「遺伝子」の3つの多様性）
- 2 人間の生命と暮らしを支える「生物多様性」
- 3 人間活動による「生物多様性」の3つの危機
（「人間活動等による危機」、「人間活動の縮小による危機」、「人間が持ち込んだものによる危機」）

第2節 栃木県の現状

- 1 人間活動等による個体数や生息生育地の減少
（シルビアシジミ、シモツケコウホネなど）
- 2 里地里山の手入れ不足による質の変化
（キキョウ・チチタケなどの減少）
- 3 外来生物による生態系の攪乱
（オオハンゴンソウ、コクチバスなど）
- 4 生物多様性に関する認知度の不足
（白根山へのコマクサの移植など）

課題

- 1 生息生育地の保全
希少な野生動植物の保護
- 2 県民協働による保全再生の推進
生物多様性に配慮した農林水産業の推進
- 3 外来生物の防除
ペットの屋外放逐防止の普及啓発
- 4 県民生活や事業活動への浸透

第3章 基本理念と目標

基本理念

豊かな生物多様性を守り育て、その恵みを次世代に継承できる
「人と自然が共生するとちぎ」の実現

目 標（目指すべき社会）

多様な生きものとそれらの
「つながり」を育む社会

将来にわたって生物多様性
からの恵みを分かち合う社会

多様な主体の協働により自然
との共生を守り育てる社会

第4章 行動指針と行動計画

行 動 指 針（各主体に期待される役割）

県民	生物多様性が日常の暮らしと密接な関わりがあることを一人ひとりが認識して行動する
保全活動団体	地域の幅広い層を対象とした生物多様性に関する体験学習の機会を広く提供する
事業者	生物多様性に配慮した事業活動を展開し、社会貢献活動を積極的に行う
市町	地域住民と一体となり、地域特性に応じた生物多様性保全に向けた施策を推進する
県	各主体と協働し、生物多様性の保全に向けた施策を総合的かつ計画的に推進する

行動計画（生物多様性の保全と持続可能な利用をバランス良く推進）

生物多様性の保全		生物・自然資源の持続可能な利用	
希少種の生息生育地の保全	外来種対策 など	生物多様性に配慮した農林水産業の促進	など
生物多様性を支える基盤づくり	普及啓発の推進	教育・学習の推進	人材の育成 など

第5章 戦略の効果的な推進

多様な主体の協働の推進

大学・研究機関等との連携強化

など